



みまも



1993年9月1日 **みのわマックを支える会** 郵便番号 東京6-566279

事務局 千114 東京都北区滝野川7-31-7

(03) 5974-5082

FAX (03) 5974-5093

創刊号

アルコール依存症リハビリテーション・センター ALCOHOL ADDICTION REHABILITATION CENTER

創刊号



十五周年感謝の集い

七月二十日（金）王子駅前、北トピア。四百人以上の仲間とその友人たちが集まりました。曇り空の下、マツクの生みの親であるミニーさん、育ての親であるテルコさん、二人の顔を久しぶりに見れることもあったのでしよう、とにかくでしぎやかでした。

十時半からの
予定だったので
すが、十時頃に
始まりそうにな
ったり、昼にで
た軽食もほんの
十分か二十分で
ほとんど無くな

ってしまったたり、ハブニングも手伝って
楽しい集いになりました。

ロイさんが北海道で活躍していた時の
はなし、ミニーさんから今の後援会の仕
事を三か月と言われて頼まれたのに、十
年以上続けていて恨んでいるはなし？

テルコさんはマックにまだA・Aのサービス・オフィスがあった頃のはなし



十五周年でのミニーさん

山本さんは色々あったけどもう一度子供に帰ってそこからやり直していききたいというはなし。

荒井さんからはみのわマック運営委員会準備会から支える会が今日まで歩んできた道程のはなし。

そして、ミニーさんは色々とおもしろい話をしてくださいました。アメリカで死者の日に本当に死にそうになったと話されていましたが、いまでも思い出し笑いをしています。

人は旅人です

自分以外の人と旅をする

旅人です

ミニーさんはこんなことを話されていました。どんな人たちと旅をして来たのでしょうか？

自身がアルコール依存症という病気になる、アメリカで治療を受け、十九年前に日本で仲間の手助けを始めました。

ミニーさんは東京の山谷から仲間の手

助けを始めました。アルコール依存症者というのは飲んでいるとき風呂に入らなくても平気です。酒さえ飲めれば着のみのままでも平気です。そんな山谷地区の仲間の手助けは本当に大変だったんだと思います。ふだん僕たちのする手助けは、お金だとか言葉だとか間接的なものばかりです。本当に困っている仲間と触れ合って一緒に生活することもしていません。大変なことだからです。結婚も出来ないだろうし（神父さんだから当たり前なんですけど）、今の社会で尊ばれている生産的な仕事でもありません。

ミニーさんは、みのわマックができる前に大宮でお金もなく行くあてもない仲間と三年間の共同生活をなさいました。

「大宮ハーフウェイ・ハウス」です。

アルコール依存症という病気にかかると精神的な成長が止まります。つまり年はとっても考え方は子供だということですよ。そんな仲間たちと三年間も一緒に生活をしました。お金を無駄づかいしたくせに、「お金を落としました」と何回も

うそをつかれたり、自分の思い通りに事が運ばない仲間に「殺すぞ」とか「死んでやる」とか、極めつけに「飲んでやる」と脅されたことだともいいます。「バカヤロー」なんて序の口だったでしょう。大変だったんだろうなとおもいます。

ミニーさんが旅をしてきた人たちはそんな人たちだったんです。（注：・彼らが悪いのではないのです、病気で成長が止まっていたのですから）

そんな旅をしてきて頂いたものは何だったんでしょうか？今度ミニーさんに聞いてみます。

テルコさん



おかげ様で なんとかなりました

移転費用と

十五周年記念事業の募金

収支のご報告

昨年の十二月より始めてきました、移転と十五周年のための募金活動も、八月で一区切りさせて頂きました。皆さんの募金は

三、九八七、一二五円

カトリック中央社会福祉委員会

カリタス・ジャパンからの援助金が

四、三〇〇、〇〇〇円

十五周年の当日献金も含めて合計は

八、七六三、八八七円

なかなか移転先が見つからず、一時は「どくなるのか？」と不安に思ったのですが、二月に入ると「トントン拍子」に事が進み、四月に大家さんと賃貸契約を結び、すぐに改装に手を付けました。五月中旬には内装も出来上がり、六月一日には引っ越しをすませ、開所を向かえることが出来ました。移転と改装に

五、八九三、〇七九円

移転が一区切りついたところで、息をつく間もなく十五周年の当日がやってきて、多くの仲間たちとお祝いをする事が出来ました。十五周年に

一、二〇七、三七九円

昨年、募金を集めると同時にマツクを巢立っていったある仲間が、会計をボランティアで手伝い始めてくれました。家

庭、仕事、AAと忙しい方だったので、月に二、三回きて下さって、会計処理から礼状の発送まで幅広く活躍して頂きました。支える会の事務に

五〇四、八一二円

このように移転と十五周年を大過なく過ごすことが出来たのも、皆さんの善意があったからです。

当初の目標金額を上回り、残高は

一、一五八、六一七円

残高については、みのわマツクから運営費の補助として、毎月十万円程度の援助をして欲しいという、申し出がありました。八月二十日(金)の運営委員会準備会でこれが了承されました。



セルフ サポート ティング

せいじん

「成人」(名) ①心身共に成長して、一人前の人間になること。②成年に達すること。

「身(からだ)の成長って何ですか?」と聞かれれば大多数の人がピンとききます。

「では、心の成長って何ですか?」と聞かれると、一瞬戸惑ってしまう方が多いのではないのでしょうか。人それぞれ色々な経験をして、成人スルわけですから、百人百様だと思えます。

身(からだ)は時と共に成人します。心がいつまでも成人しないで子供のままでいると生き詰まってしまいます。

一九七八年に三ノ輪マックが産声をあげ、七、八年で全国に広がり始めました。しかし、残念なことにその内のいくつかのマックは閉鎖することを余儀なくされました。

三ノ輪から始まったマックは全国に広がることで身(からだ)は急速に成長したのですが、心の成長が伴いませんでした。

みのわマックの場合はどうでしょうか? 心がまだ成長していません。

で、みのわマックが運営委員会をつくるために多方面の方に声をかけました。その中で心の成長のための三本柱が話し合われています。

心の成長のための3本柱

自己運営

Self-Directing
(セルフダイレクティング)

自己発展

Self-Propagating
(セルフプロパゲーティング)

経済的自立

Self-Supporting
(セルフサポートティング)

いま、運営委員会で力を入れているのが経済的自立(セルフ・サポートティング)です。年間にマックの運営費は約二十万円がかかります。五百万円を支える会の会費でまかないたいのです。目標は

正(個人) 会員 100人
法人 会員 20法人

移転と十五周年の募金でこんなにたくさんのお金を頂いておいて、このようなお願いは(「もっと金をよこせ!」と言っているようで、いくらアル中でも)心が苦しみます。

まだ苦しんでいるアルコール依存症者へのサービスを安定させるため、またみのわマックが「成人スル」ために私たちの勝手なお願いを聞き入れて下さい。

